



取扱説明書

IP ADVANCED RADIO SYSTEM  
TRANSCEIVER  
**IP100H**

この取扱説明書は、別売品のことも記載していますので、  
お読みになったあとも大切に保管してください。

Icom Inc.



# はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品は、無線LANの [IEEE802.11n/a/b/g] 規格に準拠したトランシーバーです。

弊社製IP1000Cを利用して、IPネットワークを経由した音声通信やメッセージ通信ができます。

ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、本機の性能を十分発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

## 取扱説明書の内容について

本書では、あらかじめIP1000Cと無線アクセスポイント側の設定が完了しているものとして説明しています。

※一般的なご使用を想定した内容にしていますので、各機能の詳しい設定などについては、弊社ホームページに掲載のIP1000C取扱説明書(PDFファイル)をご覧ください。

### 使用後はリサイクルへ



Li-ion

この製品は充電式電池使用機器です。

希少な金属を再利用し、地球環境を維持するために、不要になった電池は廃棄せず、端子をテープで絶縁し、充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。

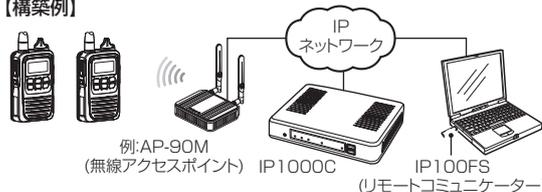
充電式電池リサイクル協力店については、一般社団法人JBRCのホームページでご確認ください。

JBRCホームページ <http://www.jbrc.com/>

## 本製品の概要について

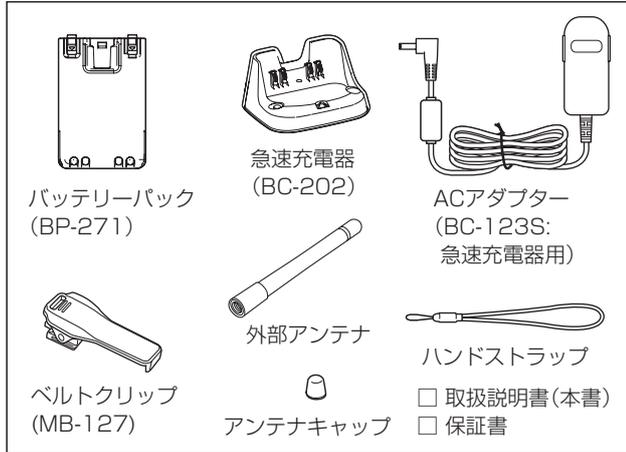
- ◎ [IEEE802.11n/a/b/g] 規格に準拠しています。
- ◎ IPネットワークを経由した呼び出し(個別/グループ/全体)やメッセージの送受信\*1ができます。  
※ご利用になるためには、弊社製IP1000Cと無線アクセスポイントが必要です。
- ◎ 本製品からステータス情報(例:会議中)\*1を送信すると、IP1000CやIP100FS(リモートコミュニケーター)側で確認できます。
- ◎ 2種類(単信/複信)の通信方式\*2に対応しています。
- ◎ IPX7(防浸形)\*2の性能に対応できるように設計されています。(バッテリーパック装着時に限る)
- ◎ 本製品は、免許不要・資格不要です

### 【構築例】



- ★1 送信できるメッセージやプレゼンスは、あらかじめIP1000C側で設定された内容です。
- ★2 単信は送信と受信を交互に切り替えて交信する方式、複信は同時に通話できる方式です。
- ★3 「IP表記について」(※Piv)をご覧ください。

## 付属品について



※付属品の一部は、別売品(※5章)としてもご用意しています。

## 登録商標/著作権について

アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、アイコムロゴ、ポケットビーブは、アイコム株式会社の登録商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

本書の内容の一部または全部を無断で複写/転用することは、禁止されています。

本製品のフォントは、モリサワのフォントを採用しております。

## 取扱説明書の構成について

本製品の基本的な使用方法について、本書を最初から順番に読みながら進められるように構成されています。

はじめに

ご使用前に

各部の名称と機能

基本操作

応用操作

別売品とその使いかた

ご参考に

定格

さくいん

※本製品の仕様、外観、その他の内容については、改良のため予告なく変更されることがあり、本書の記載とは一部異なる場合があります。

---

# はじめに

---

## 防水性能について

---

バッテリーパックを本製品に装着することで、IPX7の防水性能があります。

次のような使いかたをすると、防水性能を維持できませんので、ご注意ください。

- 水深1m以上、または30分以上水中に放置したとき
- 雨の中や、水滴が付着、またはぬれた手でバッテリーパックや防水形スピーカーマイクロホンを付けたり、はずしたりしたとき
- 海水や砂、泥、洗浄液(洗剤)等が無線機に付着したまま放置したとき
- 落下等外的衝撃により、樹脂変形、ひずみ、ひび割れ等が発生した場合や薬品の付着により筐体、ゴムパッキンに劣化が生じたとき
- 長時間、高い水圧をかけたとき
- 蛇口からの水や湯を直接当てたとき
- 「別売品の使用による防水性能について」に記載する別売品以外を使用したとき
- 無線機本体とバッテリーパック端子間の腐食による故障、または損傷
- -10℃～+60℃以外の環境で使用したとき
- 薬品等の蒸気が発散しているところや薬品に触れるところに放置したとき
- 本製品を分解または改造したとき
- 無線機本体とバッテリーパック、別売品を接続するコネクター間に微細なゴミ(糸くず、毛髪、砂など)が挟まっているとき

---

## 別売品の使用による防水性能について

---

バッテリーパック(BP-271/BP-272)を無線機本体に装着することで、IPX7の防水性能があります。

※上記以外の別売品を使用したときは、別売品を含めた防水性能の低いものに制限されます。

※別売品(※5章)は、防水性能をご確認の上、ご使用ください。

---

## 海水が付着したときは？

---

海水が無線機に付着したときは、蛇口などから直接かけるのではなく、洗面器などにためた真水で洗い流してください。

また、ブラシなどを使用せず、手で洗い流してください。

洗い流したあとは水分をふき取り、十分に乾燥させてからご使用ください。

---

## ユーザー登録について

---

インターネットから、<http://www.icom.co.jp/> にアクセスしていただき、ユーザー登録用フォーム(サポート情報→ユーザー登録)にしたがって必要事項を入力してください。

## IP表記について

機器内への異物の侵入に対する保護性能を表すための表記です。

IPにつづけて保護等級を示す数字で記載され、1つ目の数字が防塵等級、2つ目が防水等級を意味します。

また、保護等級を定めない場合は、その等級に該当する数字の部分で「X」で表記します。

### 【本書で記載する保護の程度について】

IPX4(防まつ形) : いかなる方向からの水の飛まつを受けても有害な影響がないこと

IPX7(防浸形) : 水深1mの静水(常温の水道水)に静かに沈め、30分間放置したのちに取り出して、無線機として機能すること

# はじめに

## 取り扱い上のご注意

- ◎アンテナを持って本製品を持ち運んだり、振り回したりしないでください。
- ◎本製品を極端に寒い場所から持ち運んだ場合は、結露する可能性があります。  
結露した場合は、自然乾燥させるか、長いあいだ同じ環境に置くなどして、結露がなくなってからご使用ください。
- ◎雨の中や、水滴が付着したまま、またはぬれた手でバッテリーパックや防水形スピーカーマイクロホン、アンテナを付けたたり、はずしたりしないでください。
- ◎蛇口からの水や湯を直接当てないでください。
- ◎無線機本体やバッテリーパックと充電器の各端子(充電端子および電源ジャック)、アルカリ電池ケースの電池端子にゴミやホコリが付着すると、正常に動作しないことがあります。  
乾いた布などで、各端子を定期的にふいてください。
- ◎磁気カードを無線機に近づけないでください。  
磁気カードの内容が消去されることがあります。
- ◎バッテリーパックをお買い上げいただいたときや、2ヵ月以上充電しなかったときは、必ず充電してください。

◎本製品の故障、誤動作、不具合、停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても当社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

## 日常のお手入れと点検について

- ◎清掃するときは、洗剤や有機溶剤(シンナー、ベンジンなど)を絶対に使用しないでください。  
ケースが損傷したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。  
ふだんは、乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。  
また、バッテリーパック(BP-271/BP-272)やアルカリ電池ケース(BP-273)を取りはずした状態では、乾いたやわらかい布でふいてください。
- ◎無線機本体、充電器、バッテリーパック、アルカリ電池ケースの各端子(充電端子や電源端子)にゴミやホコリが付着すると、接触不良が原因で正常に動作しないことがあります。  
乾いた布などで、各端子を定期的にふいてください。
- ◎使用される前に、電池の容量が十分残っているか、表示部の残量表示を確認してください。(P7)  
また、バッテリーパック、またはアルカリ電池ケースなどがしっかりと装着されているか点検してください。

◎本製品は、ネットワークの状態により音声途切れるなど音質が低下する場合、1秒以上の音声遅延が生じる場合があります。

## 無線LANの電波法についてのご注意

- ◎5.2/5.3GHz帯無線LANの使用は、電波法により、屋内に限定されます。
- ◎本製品に使用している無線装置は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けています。  
したがって、本製品の使用については、無線局の免許は必要ありません。
- ◎本製品を使用できるのは、日本国内に限られています。  
本製品は、日本国内での使用を目的に設計・製造しています。  
したがって、日本国外で使用された場合、本製品およびその他の機器を壊すおそれがあります。  
また、その国の法令に抵触する場合がありますので、使用できません。
- ◎心臓ペースメーカーを使用している人の近くで、本製品を使用しないでください。  
心臓ペースメーカーに電磁妨害をおよぼして、生命の危険があります。
- ◎医療機器の近くで本製品を使用しないでください。  
医療機器に電磁妨害をおよぼして、生命の危険があります。
- ◎電子レンジの近くで本製品を使用しないでください。  
電子レンジによって本製品の無線通信への電磁妨害が発生します。
- ◎本製品は電波法に基づいて、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた製品です。  
分解や改造をしないでください。

## Bluetooth®搭載機器との電波干渉について

Bluetooth®搭載機器は、2.4GHz帯を使用しています。  
本製品を2.4GHz帯でご使用になるときは、Bluetooth®搭載機の近くで使用すると、混信して通信速度の低下や接続が不安定になることがあります。  
電波干渉するときは、Bluetooth®搭載機器の無線伝送可能領域外で本製品をご使用いただくか、Bluetooth®搭載機器のご使用をお控えください。

## 情報処理装置等電波障害自主規制について

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。  
取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。 VCCI-B

# はじめに

## 2.4GHz無線LANの電波干渉についてのご注意

2.4GHz帯の無線LANで通信をするときは、次のことさらに注意してください。

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を必要とする無線局)および特定小電力無線局(免許を必要としない無線局)並びにアマチュア無線局(免許を必要とする無線局)が運用されています。

◎この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことをご確認ください。

◎万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか、または電波の発射を停止した上、下記のサポートセンターにご連絡いただき、混信回避のための処置等についてご相談ください。

◎その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、下記へお問い合わせください。

### お問い合わせ先

アイコム株式会社 サポートセンター

0120-156-313 (フリーダイヤル)

◆ 携帯電話・PHS・公衆電話からのご利用は、

06-6792-4949 (通話料がかかります)

受付 (平日 9:00~17:00)

## 2.4GHz無線LAN表記の意味について

「2.4」 : 2.4GHz帯を使用する無線設備

「DS/OF」: DS-SS方式/OFDM方式

「4」 : 想定干渉距離が40m以下

「---」 : 全帯域を使用し、かつ移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局の帯域を回避可能

**2.4DS/OF4**

## 5GHzの無線通信チャンネルについて

右記の表示がある製品は、[IEEE802.11a (W52/W53/W56)]規格で採用された無線通信チャンネルに対応しています。

本製品が接続する無線アクセスポイントについても、この表示がある製品でご利用いただくことをおすすめします。

**IEEE802.11b/g/n**

**IEEE802.11a/n**

**J52 W52|W53|W56**

5GHz帯を使用する場合、無線アクセスポイント側でANY拒否などSSIDステルス(隠蔽)機能が設定されていると、本製品は接続できませんのでご注意ください。

## 安全にご使用いただくために、 必ずお読みください。

- ◎ 使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくご使用いただくために、守っていただきたい注意事項を示しています。
- ◎ 次の『△危険』『△警告』『△注意』の内容をよく理解してから本文をお読みください。

 <b>危険</b>	この記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。
 <b>警告</b>	この記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。
 <b>注意</b>	この記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

### 免責事項について

地震・雷・風水害などの天災および当社の責任以外の火災、本製品の違法な使用、お客様または第三者が取扱説明書とは異なる使用方法で本製品を使用することにより生じた損害につきましては、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

## ■ 共通(無線機本体/バッテリーパック/充電器)

### △ 警告

- ◎ **分解、改造しないでください。**  
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎ **万一、煙が出ている、変なおいや音がするなどの異常がある場合は、使用しないでください。**  
そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。すぐに電源を切り、煙が出なくなるのを確認してからお買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。
- ◎ **赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。**  
感電、けがの原因になります。

# 安全上のご注意

## △注意

- ◎直射日光の当たる場所や空調機器の吹き出し口など、温度変化の激しい場所に置かないでください。  
変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。
- ◎清掃するときは、洗剤や有機溶剤（シンナー、ベンジンなど）を絶対に使用しないでください。  
ケースが損傷したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。  
ふだんは、乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。

## ■無線機本体について

### △危険

- ◎引火性ガスの発生する場所では絶対に使用しないでください。  
火災、爆発の原因になります。

### △警告

- ◎指定以外のバッテリーパックを使用しないでください。  
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎アンテナやハンドストラップを持って本製品を振り回したり、投げたりしないでください。  
本人や他人に当たって、けがや故障、および破損の原因になります。

- ◎大きな音量でヘッドホンやイヤホンなどを使用しないでください。  
大きな音を連続して聞くと、耳に障害を与える原因になります。

## △注意

- ◎アンテナを折り曲げたり、ねじったりしないでください。  
変形や破損の原因になることがあります。
- ◎針金などの細い棒でマイクやスピーカーの穴に触れないでください。  
故障の原因になることがあります。
- ◎ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。  
落ちたり、倒れたりして、火災、けが、故障の原因となることがあります。
- ◎付属品、および指定の別売品以外は使用しないでください。  
故障の原因になることがあります。
- ◎テレビやラジオの近くで送信しないでください。  
電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。
- ◎ $-10^{\circ}\text{C}$ ～ $+60^{\circ}\text{C}$ 以外の環境では使用しないでください。  
記載の温度範囲以外でのご使用は、故障の原因になることがあります。

## ■ バッテリーパックについて

### ⚠ 危険

- ◎ 下記の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱や発煙、液もれ、感電、やけどの原因になります。
  - バッテリーパックの端子にハンダ付けをしないでください。
  - バッテリーパックの端子間を針金などの金属類で接続しないでください。
  - 金属類(針金、ネックレス、鍵など)や導電性のあるものをバッテリーパックの上に放置したり、バッテリーパックといっしょに持ち運んだりしないでください。
  - バッテリーパックは、単体で水や海水につけたり、ぬらしたりしないでください。
  - 弊社指定の充電器での充電、および無線機の使用について厳しい検査をしていますので、弊社指定以外の無線機や充電器、およびそれ以外の用途には使用しないでください。
  - バッテリーパックからもれ出した液が目に入ったときは、こすらないでください。  
失明のおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流したあと、ただちに医師の治療を受けてください。
- ◎ 火やストーブのそば、車内や炎天下など、高温になる場所での使用、充電、放置はしないでください。  
バッテリーパックの性能や寿命が低下したり、保護装置が動作して充電できなくなったり、保護装置が破損したりして、破裂、発煙、発火や火災、液もれ、やけどの原因になります。

- ◎ 火の中に投入したり、加熱したりしないでください。  
バッテリーパック内部のガスに引火して、破裂や火災などの原因になります。
- ◎ コンクリートなどのかたい床に落としたり、強い衝撃を与えたり、投げ付けたりしないでください。  
外観上、ひび割れや破損がない場合でも、内部で破損している場合があり、その状態で使用をつづけると、破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。

# 安全上のご注意

## △ 警告

- ◎ 使用中や充電中に、いつもより発熱するなど異常と感じたときは、使用を中止してください。  
使用をつづけると、バッテリーパックの破裂、発熱、液もれ、故障の原因になります。
- ◎ 電子レンジや高圧釜などに入れたり、電磁調理器の上に置いたりしないでください。  
破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。
- ◎ 指定の充電時間以上、充電しないでください。  
指定の充電時間を経過しても充電を完了しないときは、ただちに充電を中止してください。  
破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。
- ◎ 満充電後、すぐに再充電を繰り返さないでください。  
過充電になり、バッテリーパックの破裂、発熱、液もれの原因になります。
- ◎ バッテリーパックからもれ出した液が皮膚や衣服に付着したときは、放置しないでください。  
皮膚に障害を与えるおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。
- ◎ テープを巻きつけたり、加工したりしないでください。  
バッテリーパック内部からガスが発生することがあり、破裂、発熱、液もれの原因になります。
- ◎ バッテリーパックは、ぬれた状態で無線機や充電器に装着しないでください。  
無線機や充電器の電源端子接点部に水や海水が付着して、故障の原因になります。

## △ 注意

- ◎ 下記の事項を守らないと、破裂、発熱、液もれ、サビ、性能や寿命の低下の原因になることがあります。
- バッテリーパックを満充電にした状態、または完全に使い切った状態で長期間放置しないでください。  
長期間バッテリーパックを保管する場合は、 (残量あり)の状態を表示(※P7)するまで使用して、無線機から取りはずし、下記の温度範囲で湿気の少ない場所に保管してください。  
約1ヵ月：-20～+50℃  
約3ヵ月：-20～+35℃  
約1年：-20～+20℃
- -10℃～+60℃以外の環境では使用しないでください。
- 寒い屋外や冷えた状態で充電しないでください。
- 無線機を使用しないときは、必ず電源を切ってください。

バッテリーパックをご使用の際に、異常と思われたときは、使用しないでお買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

## ■ 充電器について

### ⚠ 危険

- ◎ 下記の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱、液もれ、感電、けが、故障の原因になります。
- BC-202(付属品：急速充電器)とBC-123S(付属品：ACアダプター)は、本製品の充電以外に使用しないでください。
- BC-211(別売品：6連急速充電器)には、弊社指定以外のACアダプターを使用しないでください。
- 弊社指定のバッテリーパック以外を充電しないでください。BP-271(付属品)、BP-272(別売品)専用の充電器です。

### ⚠ 警告

- ◎ 下記の事項を守らないと、火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。
- 充電器に水を入れたり、ぬらしたりしないでください。また、水にぬれたときは、使用しないでください。
- ぬれた手で電源プラグや機器に絶対に触れないでください。
- 電源ケーブルや接続ケーブルの上に乗ったり、重いものを載せたりしないでください。
- 電源ケーブルや接続ケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。
- 充電器の充電端子接点部に金属類を差し込まないでください。
- 電源ケーブルや接続ケーブルに傷がある、またはACコンセントの差し込みがゆるいときは、使用しないでください。

### ⚠ 注意

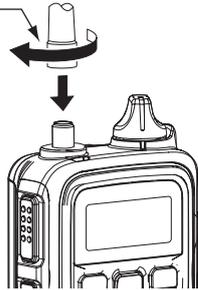
- ◎ 下記の事項を守らないと、火災、液もれ、発熱、感電、故障の原因になることがあります。
- 以下の温度範囲以外の環境で充電しないでください。  
BC-202(付属品：急速充電器) : 0~40℃  
BC-211(別売品：6連急速充電器) : 10~40℃
- 充電が完了したバッテリーパックを再充電しないでください。
- 湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所に置かないでください。
- 電源ケーブルを抜き差しするときは、電源ケーブルを引っ張らないでください。
- 充電後や充電しないときは、ACコンセントからACアダプターを抜いてください。

# もくじ

はじめに	i	■ 履歴の使いかた	13
安全上のご注意	viii	<b>4. 応用操作</b>	<b>14</b>
■ 共通(無線機本体/バッテリーパック/充電器)	viii	■ メッセージを送信するときは	14
■ 無線機本体について	ix	■ 受信したメッセージを確認するときは	15
■ バッテリーパックについて	x	■ プレゼンスを送信するときは	15
■ 充電器について	xii	■ 近隣呼出機能について	16
<b>1. ご使用の前に</b>	<b>1</b>	■ トークグループ呼び出しについて	17
■ 外部アンテナの取り付けかた	1	■ [オプション]キーについて	17
■ ベルトクリップの取り付けかた	2	■ ポケットビープ機能について	18
■ ハンドストラップの取り付けかた	2	■ Pベル機能について	18
■ バッテリーパックの取り付けかた	2	■ VOX機能について	18
■ 充電のしかた	3	<b>5. 別売品とその使いかた</b>	<b>19</b>
■ 正しい充電のために	4	■ 別売品一覧	19
■ バッテリーパックの特性と寿命について	4	■ 別売品の接続について	20
■ バッテリーパックの膨らみについて	4	■ BC-211(6連急速充電器)充電のしかた	22
■ 充電時間と運用時間の目安	5	■ アルカリ電池ケースについて	23
■ 電源の入れかたと音量調整のしかた	6	<b>6. ご参考に</b>	<b>24</b>
■ ロック機能について	7	■ 故障かな?と思ったら	24
■ 電池の残量表示について	7	■ アフターサービスについて	26
■ 電池の残量警告音について	7	<b>7. 定格</b>	<b>27</b>
<b>2. 各部の名称と機能</b>	<b>8</b>	■ 一般仕様	27
■ 各部の名称	8	■ 無線LAN部	27
■ 表示部のアイコンについて	8	■ 音声部	27
■ 操作キーについて	9	■ BC-202 急速充電器(付属品)	27
<b>3. 基本操作</b>	<b>10</b>	■ BC-211 6連急速充電器(別売品)	27
■ 交信のしかた(単信通信の場合)	10	<b>8. さくいん</b>	<b>28</b>
■ アドレス帳の使いかた	12		

## ■ 外部アンテナの取り付けかた

この部分を  
持って回します。



※内部アンテナをご使用になる場合は、付属のアンテナキャップを取り付けてください。

### 【ご注意】

技術基準適合証明(工事設計認証)を受けていますので、付属の外部アンテナ以外は使用できません。

### 【ご参考に】

内部アンテナと外部アンテナ\*<sup>1</sup>では、通信距離が異なります。

下記の見通し距離を目安にご使用ください。

	内部アンテナ	外部アンテナ
2.4GHz帯	100m	210m
5GHz帯	90m	190m

※設置する環境や条件などにより、通信距離は異なります。

※弊社製無線アクセスポイントAP-80M、またはAP-90M\*<sup>2</sup>の無線2(外部アンテナ側)と通信した場合の距離です。

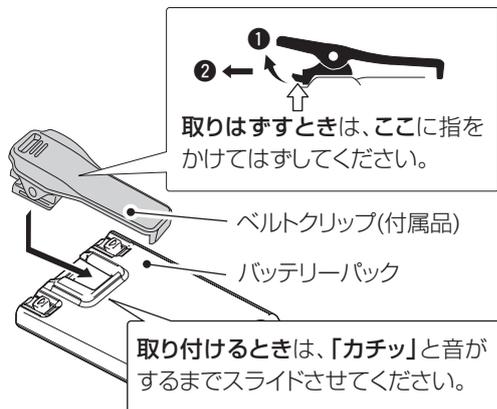
★<sup>1</sup> お使いになる製品によっては、ショートアンテナが付属されています。

ショートアンテナでご使用になる場合、本書に記載の付属品(標準アンテナ)に比べて、通信距離が短くなります。

★<sup>2</sup> AP-90Mの無線1(内部アンテナ側)を使用する場合、無線2(外部アンテナ側)に比べて、通信距離が短くなります。

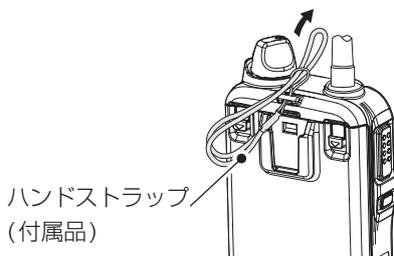
# 1 ご使用前に

## ■ ベルトクリップの取り付けかた



※バッテリーパックを無線機本体から取りはずした状態で、ベルトクリップを着脱してください。

## ■ ハンドストラップの取り付けかた



## ■ バッテリーパックの取り付けかた



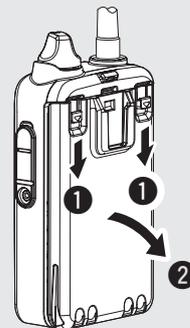
上図の手順(①~②)で、取り付けてください。

### △ 注意

しばらく使用しないときは、バッテリーパックを無線機本体から必ず取りはずしてください。

本製品の電源を切った状態でも、常に微少の電流が流れていますので、電池が消耗する原因になることがあります。

※本製品の電源を切ってから、右図の手順(①~②)で、バッテリーパックを取りはずしてください。



## ■ 充電のしかた

お買い上げいただいたときや、2ヵ月以上充電しなかったときは、必ず充電してから、ご使用ください。

◎ 充電中は、必ず本製品の電源を切ってください。

電源が入ったまま充電すると、正常に充電しないことがあります。

◎ バッテリーパック、または無線機本体にバッテリーパックを装着した状態で、図のように充電器に差し込んでください。

◎ 充電中、充電ランプは橙色に点灯します。

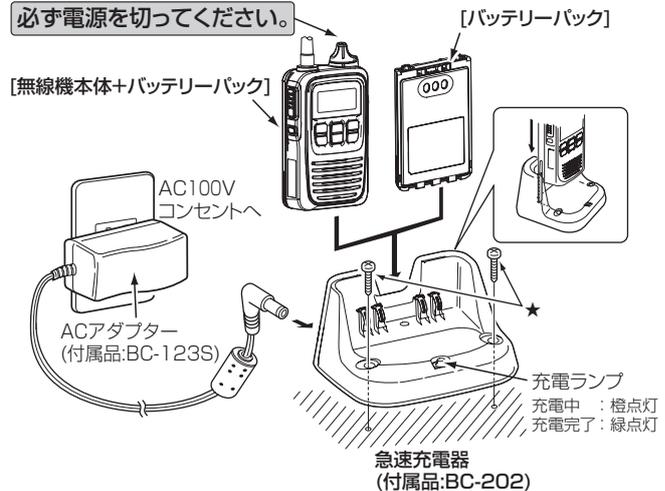
充電が完了すると緑色に点灯します。

※ 橙色で点滅する場合は、25ページをご覧ください。

◎ 充電が完了したあと、バッテリーパックの電圧が低下すると自動的に再充電を開始します。

※ 使用温度範囲外の環境や劣化が進んだバッテリーパックを充電した場合、充電完了後すぐに充電を再開する場合がありますが、充電器の故障ではありません。

※ 充電後や充電しないときは、ACアダプターを抜いてください。



★ 固定されるときは、市販のタッピングネジ(2本: 3.5×30mm)をご用意ください。

### ⚠ 危険

◎ 充電するときは、必ず本製品に付属、または「別売品一覧表」(P19)に記載の充電器をご使用ください。

◎ 指定(BP-271/BP-272)以外のバッテリーパックは、絶対に充電しないでください。

◎ 「安全上のご注意」(Pviii~Pxii)を併せてお読みになり、安全な方法で充電してください。

## 1 ご使用の前に

### ■ 正しい充電のために

- ◎ バッテリーパックは、使い切らずに継ぎ足し充電ができませんので、常に満充電にしてご使用ください。  
なお、満充電した直後に再充電しないでください。
- ◎ 満充電、または完全に使い切った状態で長期間放置すると、バッテリーパックの寿命が短くなるおそれがあります。  
長期間バッテリーパックを保管する場合は、満充電のあと、残量表示が  (残量あり) の状態になるまで使用し、無線機本体からバッテリーパックを取りはずして保管してください。
- ◎ 極端に高温、または低温の環境下やバッテリーパックと充電器の温度差が大きい場合、充電できないことがあります。  
充電器は、次の環境でご使用ください。  
BC-202 (付属品：急速充電器) : 0~40℃  
BC-211 (別売品：6連急速充電器) : 10~40℃
- ◎ バッテリーパックは消耗品ですから、充電を繰り返すと運用時間が少しずつ短くなります。  
運用時間が極端に短くなったときは寿命ですので、新しいバッテリーパック (別売品) をご購入ください。
- ◎ 充電口や充電端子各部にゴミやホコリが付着すると、正常に充電できないことがありますので、乾いた布などで、各端子を定期的にふいてください。

### ■ バッテリーパックの特性と寿命について

- ◎ バッテリーパックは、消耗品です。  
充電できる回数は、300回~500回が目安です。
- ◎ 使用せずに保管しているだけでも、劣化が進行します。
- ◎ 劣化がはじまると、充電が完了しても運用時間が短くなります。
- ◎ 充電が完了しても、運用時間が極端に短くなったときは寿命です。  
無線機の性能を十分活用するため、長くても5年以内の交換されることをおすすめします。

### ■ バッテリーパックの膨らみについて

このような環境や条件で使用をつづけると、バッテリーパックの性質や特性により、内部が劣化し膨張することがあります。

- ◎ ひんぱんに充電している
- ◎ 満充電直後でも再充電している
- ◎ 高温な場所で使用・保管している
- ◎ 本書で説明する充電方法と異なる

バッテリーパックが膨張した場合は、劣化に伴う寿命ですので、新しいものと交換してください。

## ■ 充電時間と運用時間の目安

ご使用になるバッテリーパックや充電器によって、充電時間や運用時間が異なります。

※無線アクセスポイントの圏外やローミングを繰り返す環境では、運用時間は短くなります。

名称 定格項目	BP-271	BP-272
電池の種類	リチウムイオン	
電池の容量	1150mAh min. (1200mAh typ.)	1880mAh min. (2000mAh typ.)
出力電圧	7.4V	
寸法 (幅×高さ×奥行)	58×86.9×9.1	58×86.9×14.2
運用時間	約27時間	約40時間
	〈条件〉送信1、受信1、待ち受け受信8の割合で繰り返し運用	
充電時間	約2時間	約3.5時間
	〈条件〉BC-202、またはBC-211を使用時	

※本製品に付属しているバッテリーパックは、BP-271です。

※バッテリーパックの残量がなく、本製品の電源を切った状態で充電した場合の時間です。

※バッテリーパックに異常があると思われるときは、使用を中止して、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

**【アルカリ電池ケースをご使用の場合】**（別売品：BP-273）  
市販のアルカリ乾電池をBP-273に入れて使用した場合の運用時間の目安です。

※BP-273の使用方法や注意事項については、23ページをご覧ください。

運用時間	約24時間
	〈条件〉送信1、受信1、待ち受け受信8の割合で繰り返し運用

※使用条件やアルカリ乾電池の種類（製造元など）により、運用時間が大きく異なることがあります。

また、アルカリ乾電池の特性により、低温では使用時間が短くなります。

※BP-273を装着しているときは、アルカリ乾電池の残量を表示できません。

アルカリ乾電池の残量に関わらず、電池の残量表示は「■」のままです。

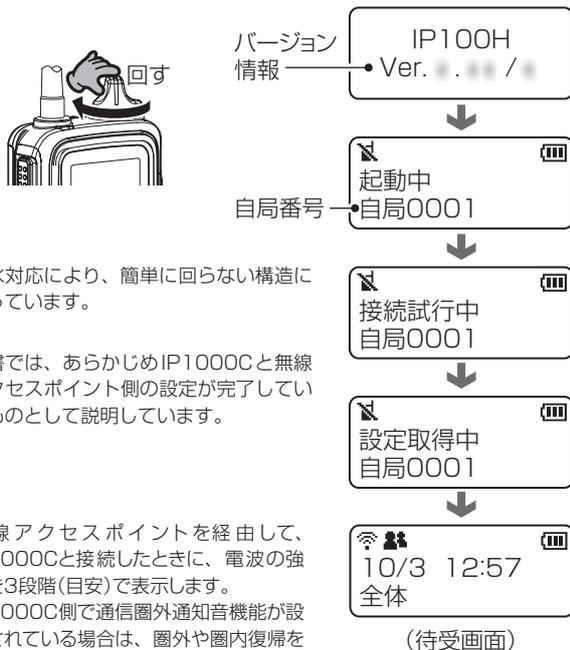
# 1 ご使用の前に

## ■ 電源の入れかたと音量調整のしかた

### 1 電源を入れる

[電源/音量]ツマミを時計方向に、12時の位置まで回します。

- 「カチッ」と音がして、ビープ音が「ピー」と鳴ります。



※防水対応により、簡単に回らない構造になっています。

※本書では、あらかじめIP1000Cと無線アクセスポイント側の設定が完了しているものとして説明しています。

※無線アクセスポイントを経由して、IP1000Cと接続したときに、電波の強度を3段階(目安)で表示します。IP1000C側で通信圏外通知音機能が設定されている場合は、圏外や圏内復帰を通知音でお知らせします。

### 2 音量を調整する

[電源/音量]ツマミを時計方向に回すと、音量が大きくなります。

相手の音声聞きやすい音量レベルに調整してください。調整できる範囲は、「0~32」です。



#### 【ご注意】

- 電源を入れたあと、待受画面が表示されないときは、本書25ページをご覧ください、またはシステムの管理者にお問い合わせください。
- 音量が最小のときは、操作音(ビープ音)や受信した音声聞こえません。

## ■ ロック機能について

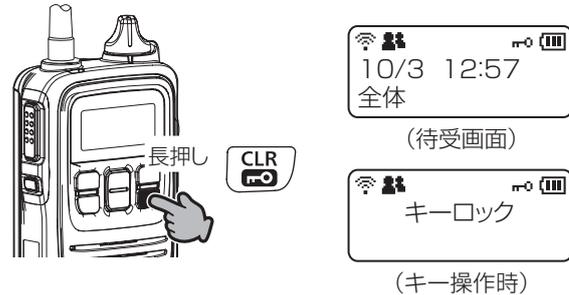
電源を入れなおしたり、不用意に本製品のキーやスイッチに触れたりしても、設定や表示が変わらないようにします。

[CLR/LOCK] キーを長く(約1秒)押します。

- ビープ音が「ピピッ」と鳴って、「」が点灯します。

※同じ操作をすると、ロックを解除できます。

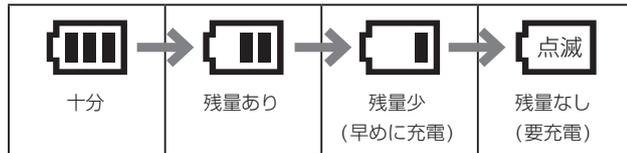
※ [PTT] (送信) スイッチと【電源/音量】ツマミは、ロック中でも使用できます。



## ■ 電池の残量表示について

バッテリーパックの残量に応じて、表示が変化します。

### 【電池残量の目安】



※残量が少なくなりましたら、バッテリーパックを充電してください。

※アルカリ電池ケース(別売品:BP-273)を装着しているときは、アルカリ乾電池の残量を表示できません。

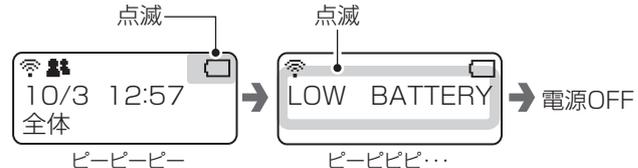
アルカリ乾電池の残量に関わらず、電池の残量表示は「」のままです。交換時期になりましたら、新しいアルカリ乾電池と交換してください。

## ■ 電池の残量警告音について

電池の残量表示が「」になると、残量警告音「ピーピーピー」が約30秒ごとに鳴ります。

警告音が鳴り出したら、すぐに充電してください。

### 【電池残量が極端に少ないとき】



※残量表示が「」の状態で使用をつづけると、「LOW BATTERY」が表示され、残量警告音「ピーピーピー…」が2秒間鳴りつづけたあと、電源が自動的に切れます。

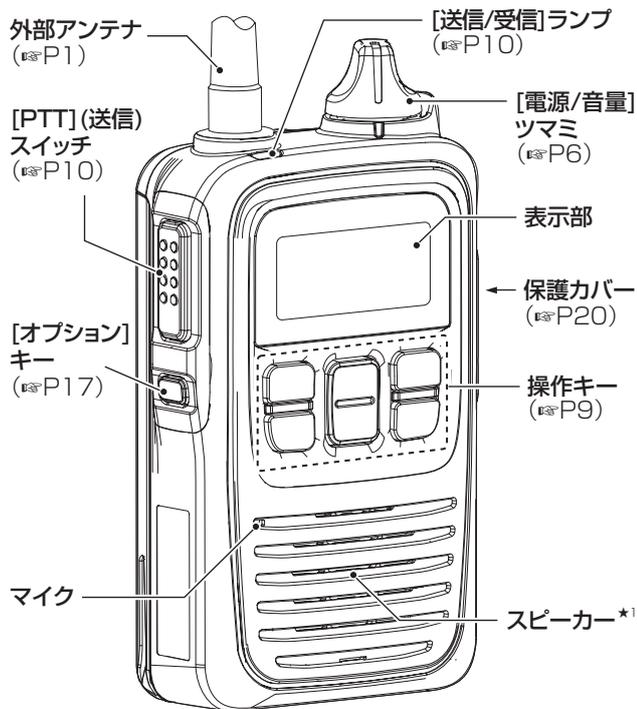
※バッテリーケースを装着しているときは、残量警告音は鳴りません。アルカリ乾電池が消耗すると、電源が切れたり、再起動を繰り返したりします。

# 2

## 各部の名称と機能

### ■ 各部の名称

(P )内の数字は、おもな参照ページです。



★1 別売品のスピーカーマイクロホン(5章)などを接続したときは、動作しません。

### ■ 表示部のアイコンについて



#### 電波状態表示

無線アクセスポイントを経由して、IP1000Cと接続したときに、電波の強度を3段階(目安)で表示します。

※無線アクセスポイントに接続できていないときは、点滅(圏外)、IP1000Cと接続できていないときは、点灯(未レジスト)を表示します。

#### 呼び出しモード表示

全体/グループ呼び出し

個別呼び出し

電話(発信/着信)

トークグループ呼び出し\*2(P17)

※呼び出しやメッセージを受信したときは、アイコンが点滅します。

#### 近隣呼出機能表示\*2 (P16)

#### ポケットビープ機能表示\*2 (P18)

#### Pベル機能表示\*2 (P18)

#### ロック機能表示 (P7)

#### 電池残量表示 (P7)

★2 IP1000C側で設定が必要です。

## ■ 操作キーについて

### [アドレス帳]キー



アドレス帳を利用して、送信するときには操作します。  
キーを押すごとに、全体⇒グループ⇒個別⇒電話と、呼出種別が切り替わります。  
※IP1000C側で設定が必要です。

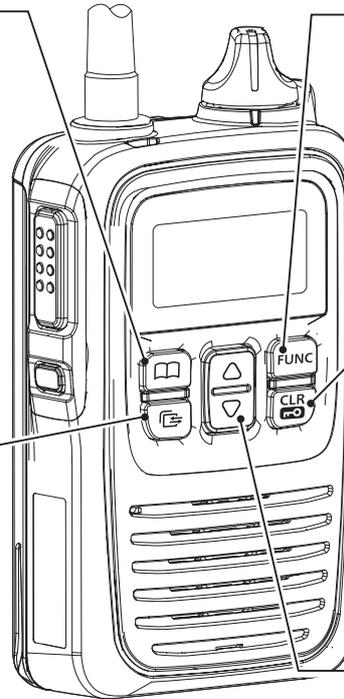


(アドレス帳：個別)

### [履歴]キー



履歴を利用して、送信するときには操作します。  
キーを押すごとに、履歴が切り替わります。  
※表示される履歴は、送信、受信、メッセージ送信、メッセージ受信、電話発信、電話着信です。



### [FUNC]キー



送信するメッセージやプレゼンスの選択、近隣呼出機能などをON/OFFするときには操作します。  
※IP1000C側で設定が必要です。



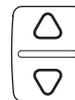
(メッセージ選択画面)

### [CLR/LOCK]キー



**短押し**  
メッセージや履歴などの選択画面から、待受画面に戻ります。  
**長押し**  
ロック機能をON/OFFします。  
※[PTT](送信)スイッチと[電源/音量]ツマミは、ロック中でも使用できます。

### [▲]/[▼]キー



アドレス帳や履歴などの画面でカーソルを移動するために使用します。

# 3

## 基本操作

本章では、無線機として利用するための基本操作を説明しています。

### ■ 交信のしかた（単信通信の場合）

#### 1 [PTT] (送信) スイッチを押す

[PTT] (送信) スイッチを押しながら、マイクに向かって通話相手に呼びかけます。

- [PTT] (送信) スイッチを押しているあいだは、**【送信/受信】**ランプが赤色に点灯します。



#### 【マイクの使いかた】

マイクと口元を約5cmはなし、普通の大きさの声で通話してください。マイクに口を近づけすぎたり、大きな声を出したりすると、かえって相手に聞こえにくくなりますのでご注意ください。



#### 2 相手の音声を受信する

[PTT] (送信) スイッチをはなすと待ち受け状態になり、相手局が送信すれば、受信した音声がかかります。

- 受信中は、**【送信/受信】**ランプが緑色に点灯し、アイコンが点滅します。

※待ち受け状態のときは、**【送信/受信】**ランプが消灯しています。

※送受信状態(複信通信時)のときは、**【送信/受信】**ランプが橙色に点灯します。



◎ IP1000C 側の受信通知設定でバイブレーション機能が設定されている場合は、振動でも受信を確認できます。

◎ IP1000C 側で受信音声ミュート機能が設定されている場合、**【オプション】**キーを長く(約1秒)押しすと、受信した音声(通知音は除く)をミュートできます。

### 3 通話をつづける

送信と受信を交互にします。

※相手が送信しているときは、[PTT] (送信) スイッチを押しても混信防止機能が動作して、ピープ音が「ブップッ…」と鳴りつづけて、送信できません。

相手の通話が終了してから、送信してください。

※送信の終わりに「どうぞ」を付け加えると、互いの会話がスムーズになります。



#### 【複信通信の場合】

IP1000C側で複信通信が設定されている場合は、本製品に別売品のマイクロホン(HM-153LS/HM-153\*<sup>1</sup>、HM-166LS/HM-166\*<sup>1</sup>、HS-85\*<sup>1</sup>)やヘッドセット(HS-102\*<sup>2</sup>)を接続することで、相手が送信しているときでも、電話のように同時通話できます。

★1 OPC-2144(スリムL型プラグ変換ケーブル)が必要です。

★2 OPC-2359(通話スイッチ内蔵型接続ケーブル)が必要です。

### 4 電源を切る

使用後は、[電源/音量] ツマミを反時計方向に「カチッ」と鳴るまで回します。

●電源を切る前の通話相手を記憶して電源が切れます。

※電源を切る直前に、表示内容を変更してすぐ(2秒以内)に電源を切ると、電源を切る前の状態が記憶されません。

表示内容を変更後に電源を切るときは、2秒以上経過してから電源を切ってください。



本製品のバックライトは、IP1000C側の設定により下記のように動作します。

◎常時消灯 : バックライトが点灯しません。

◎常時点灯 : 常にバックライトが点灯します。

◎操作時点灯 : 操作するとバックライトが点灯し、何も操作しない状態が約5秒つづくと、自動的に消灯します。

### 3 基本操作

#### ■ アドレス帳の使いかた

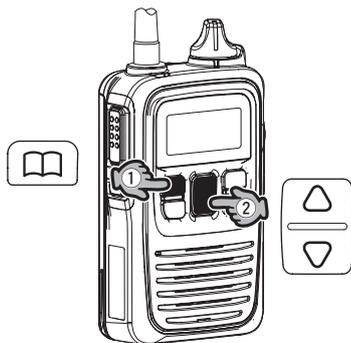
本製品で使用するアドレス帳は、IP1000C 側で設定が必要です。

#### 1 アドレス帳から相手先を選択する

① [アドレス帳]キーを押して、呼出種別(例:グループ)を選択します。

※キーを押すごとに、全体⇒グループ⇒個別⇒電話と、呼出種別が切り替わります。

② [▲]/[▼]キーを押して、相手先(例:営業グループ10)を選択します。



#### 2 [PTT](送信)スイッチを押す

[PTT](送信)スイッチを押しながら、マイクに向かって通話相手に呼びかけます。

● [PTT](送信)スイッチを押しているあいだは、[送信/受信]ランプが赤色に点灯します。



グループ呼び出し  
選択時

[送信/受信]ランプが赤色に点灯

押しつづける



【全体/グループ呼び出しの場合】

IP1000C側の呼出先設定で、呼び出し先ごとの設定が必要です。

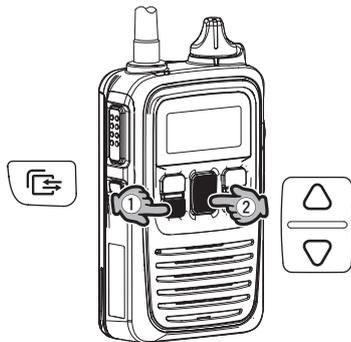
## 履歴の使いかた

### 1 履歴から通話相手を選択する

- ① **[履歴]**キーを押して、履歴(例：受信履歴)を選択します。

※キーを押すことに、送信⇒受信⇒メッセージ送信⇒メッセージ受信⇒電話発信⇒電話着信と、履歴が切り替わります。

- ② **[▲]/[▼]**キーを押して、相手先(例：営業8)を選択します。



### 2 [PTT](送信)スイッチを押す

[PTT](送信)スイッチを押しながら、マイクに向かって通話相手に呼びかけます。

- **[PTT]**(送信)スイッチを押しているあいだは、**[送信/受信]**ランプが赤色に点灯します。



個別呼び出し選択時

[送信/受信]ランプが赤色に点灯

押しつづける

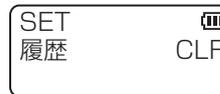


【履歴を消去するときは】

- ① **[FUNC]**キーを押しながら、**[電源/音量]**ツマミを時計方向に回して電源を入れます。  
※「SET」(下図)が表示されるまで、**[FUNC]**キーを押してください。

- ② **[▲]/[▼]**キーで「CLR」を選択し、**[履歴]**キーを押します。

- 履歴がすべて消去され、自動的に本製品が再起動します。



CLR 選択時

#### 【履歴について】

各履歴は10件まで記憶され、10件を超えると、古い履歴から消去されます。

# 4 応用操作

本章ではメッセージなど、より便利に利用するための操作方法を説明しています。

## ■ メッセージを送信するときは

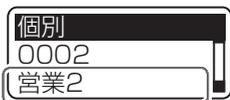
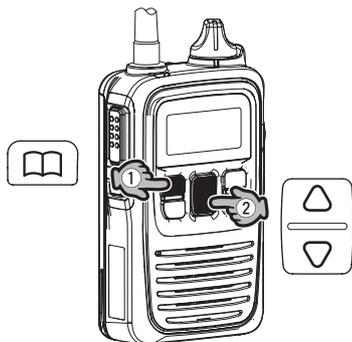
送信するメッセージ、[FUNC]キーの機能については、IP1000C側で設定が必要です。

### 1 送信先を選択する

- ① [アドレス帳]キーを押して、呼出種別(例：個別)を選択します。

※キーを押すごとに、全体⇒グループ⇒個別⇒電話と、呼出種別が切り替わります。

- ② [▲]/[▼]キーを押して、送信先(例：営業2)を選択します。



※送信先は履歴からも選択できます。

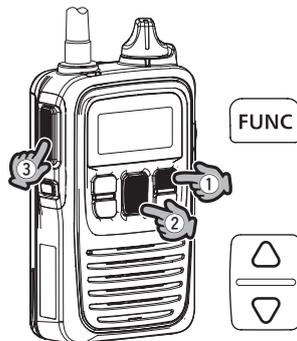
### 2 メッセージを選択して送信する

- ① [FUNC]キーを押して、メッセージを選択します。

※キーを押すごとに、IP1000C側で割り当てられた機能(メッセージ/プレゼンス/近隣呼出など)が表示されます。

- ② [▲]/[▼]キーを押して、送信するメッセージを選択します。

- ③ [PTT] (送信)スイッチを押します。



送信先



※送信先が個別の場合だけ、表示部に送信結果(送信成功/送信失敗)が表示されます。



## ■ 受信したメッセージを確認するときは

① [履歴]キーを押して、メッセージ受信履歴を選択します。

※キーを押すごとに、送信⇒受信⇒メッセージ送信⇒メッセージ受信⇒電話発信⇒電話着信と、履歴が切り替わります。

② [▲]/[▼]キーを押して、確認するメッセージを選択します。

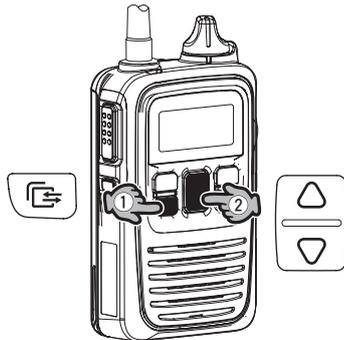
※メッセージを受信していないときは、メッセージ受信履歴は表示されません。



受信日時



スクロール表示  
(送信元/メッセージの内容)



## ■ プレゼンスを送信するときは

送信するステータス(例:会議中/食事中)、[FUNC]キーの機能については、IP1000C側で設定が必要です。

① [FUNC]キーを押して、プレゼンスを選択します。

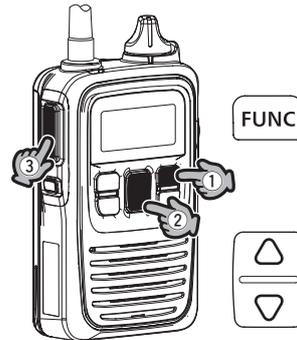
※キーを押すごとに、IP1000C側で割り当てられた機能(メッセージ/プレゼンス/近隣呼出など)が表示されます。

② [▲]/[▼]キーを押して、送信するステータスを選択します。

③ [PTT](送信)スイッチを押します。



ステータス



※表示部に送信結果(送信成功/送信失敗)が表示されます。

## 4 応用操作

### ■ 近隣呼出機能について

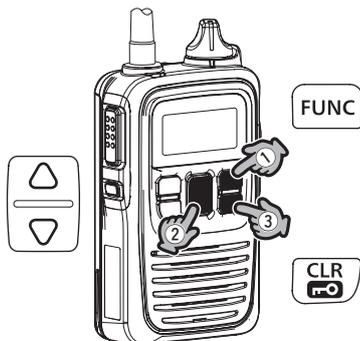
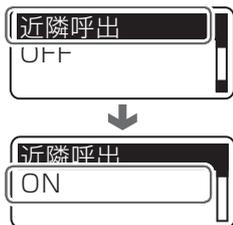
特定のエリア(例:1階フロア)に限定して運用するとき使用する機能です。  
エリア、[FUNC]キーの機能については、IP1000C側で設定が必要です。

【使用例】1階フロア



### 1 近隣呼出機能をONにする

- ① [FUNC]キーを押して、近隣呼出を選択します。  
※キーを押すごとに、IP1000C側で割り当てられた機能(メッセージ/プレゼンス/近隣呼出など)が表示されます。
- ② [▲]/[▼]キーを押して、ONを選択します。
- ③ [CLR/LOCK]キーを押します。



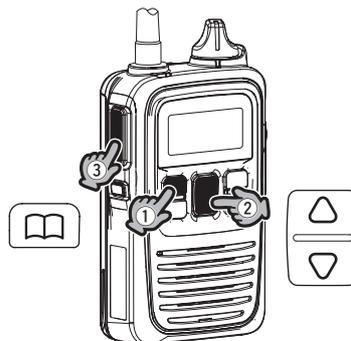
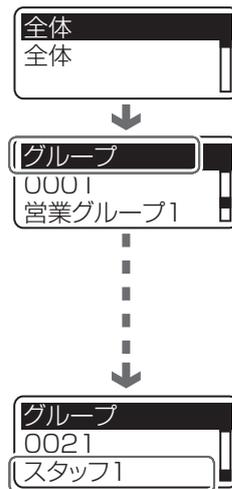
※近隣呼出機能をONになると、「」が点灯します。



(待受画面)

### 2 相手先を選択して送信する

- ① [アドレス帳]キーを押して、呼出種別(例:グループ)を選択します。  
※キーを押すごとに、全体⇒グループ⇒個別⇒電話と、呼出種別が切り替わります。
- ② [▲]/[▼]キーを押して、相手先(例:スタッフ1)を選択します。
- ③ [PTT](送信)スイッチを押します。



※送信先は履歴からも選択できます。

## ■ トークグループ呼び出しについて

あらかじめIP1000C側にトークグループとして登録しておいたグループから、端末側でどのグループに所属するかを選択できる機能です。

同じトークグループに所属するほかの端末とグループ呼び出しができます。

- ① [FUNC]キーを押して、トークグループを選択します。

※キーを押すことに、IP1000C側で割り当てられた機能(メッセージ/プレゼンス/近隣呼出など)が表示されます。

- ② [▲]/[▼]キーを押して、トークグループの番号を選択します。

- ③ [CLR/LOCK]キーを押します。

同じグループ番号(例: 1001)を選択したほかの端末と通話できる状態になります。

※トークグループ選択時、IP1000C側の[呼出先設定一覧(グループ)]に設定された通常のグループ呼び出し(※P12)は使用できません。

※上記の手順②でOFFを選択すると、トークグループが解除されます。



トークグループ  
選択時の待受画面

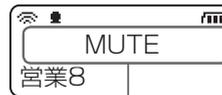


(待受画面)

## ■ [オプション]キーについて

よく使うメッセージや特定の相手をワンタッチで選択する、または受信音をミュートしたいときなどに使用します。

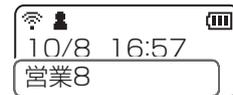
[オプション]キーの機能については、IP1000C側で設定が必要です。



ミュート機能が  
設定されている場合



よく使うメッセージが  
設定されている場合



特定の相手が  
設定されている場合

※ミュート機能を使用するときは、[オプション]キーを長く(約1秒)押します。

### 【電話切断機能が設定されているときは】

相手が応答する前、または通話中に[オプション]キーを押すと、IP100Hから電話を切れます。

※IP100Hから電話を切れるのは、電話機からIP100Hを個別に呼び出したとき、またはIP100Hから電話機を呼び出したときだけです。

## 4 応用操作

### ■ ポケットビープ機能について

呼び出しを受けたときに、ビープ音とアイコンの点滅でお知らせする機能です。

※ この機能は、IP1000C側で設定します。

ポケットビープ機能が設定されているときは、「」が点灯します。

※ 個別呼び出しのときだけ、「」が点滅します。



### ■ Pベル機能について

呼び出しを受けたときに、ビープ音でお知らせする機能です。応答するまで、相手の音声をミュート(聞こえないように)します。

※ **[PTT]**(送信)スイッチを押して応答すると、音声ミュートを解除し、相手の音声が入ります。

※ この機能は、IP1000C側で設定します。

Pベル機能が設定されているときは、「」が点灯します。



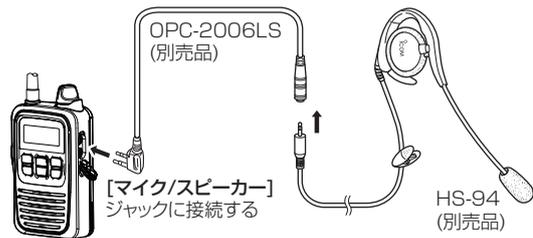
### ■ VOX機能について

本製品は**[PTT]**(送信)スイッチを押さずに、ヘッドセット(別売品)からの音声によって送受信を自動的に切り替えるVOX機能を使用できます。

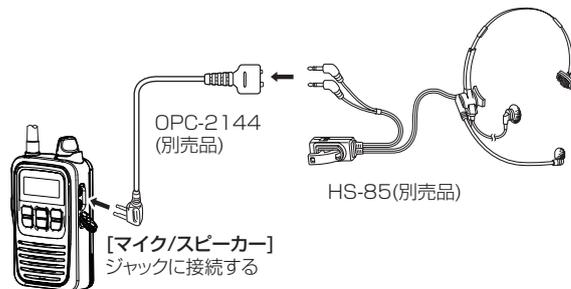
※ この機能は、IP1000C側で設定します。

※ 下図のように、本製品に別売品の変換ケーブルと、ヘッドセットを接続すると使用できます。(※P19、P20)

※ 別売品の接続方法や注意点などは、20ページ、21ページをご覧ください。



※ 別売品HS-85はVOX機能が内蔵されていますので、本製品で使用する場合、IP1000C側でVOX機能を「無効」にする必要があります。



## 【別売品についてのご注意】

弊社製別売品は、本製品の性能を十分に発揮できるように設計されていますので、必ず弊社指定の別売品をお使いください。弊社指定以外の別売品とのご使用が原因で生じる無線機の破損、故障、または動作や性能については、保証対象外とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

## ■ 別売品一覧

(2016年6月現在)

弊社ホームページ <http://www.icom.co.jp/> でも、別売品についてご覧いただけます。

## 無線機を保護する

LC-181 : ソフトケース

## バッテリー関係

BP-271\*1\*3 : リチウムイオンバッテリーパック  
(Min : 1150mAh、Typ : 1200mAh)  
BP-272\*1 : リチウムイオンバッテリーパック  
(Min : 1880mAh、Typ : 2000mAh)  
BP-273\*2 : アルカリ電池ケース  
(単3形アルカリ乾電池×3本)

## 充電する

BC-202\*3 : 急速充電器 (BC-123S 付属)  
BC-211 : 6連急速充電器 (BC-157S 付属)  
BC-123S\*3 : ACアダプター (BC-202用の電源)  
BC-157S : ACアダプター (BC-211用の電源)

## 腰にかける

MB-127\*3 : ベルトクリップ

## 接続する

OPC-2006LS : VOX 機能用変換ケーブル  
OPC-2144 : スリムL型プラグ変換ケーブル  
OPC-2328 : 通話スイッチ内蔵型接続ケーブル  
OPC-2359 : 通話スイッチ内蔵型接続ケーブル  
OPC-478UC\*4 : クローニングケーブル (※P20)  
OPC-2277LS\*5 : 通話スイッチ内蔵型接続ケーブル  
OPC-2375LS : イヤホン専用変換ケーブル

## スピーカーマイクロホン関係

HM-186LS\*2 : 小型スピーカーマイクロホン  
HM-153LS : イヤホンマイクロホン  
HM-166LS : 小型イヤホンマイクロホン  
HM-183LS\*1 : 防水形スピーカーマイクロホン  
HM-186\*4 : 小型スピーカーマイクロホン  
HM-153\*4 : イヤホンマイクロホン  
HM-166\*4 : 小型イヤホンマイクロホン  
HM-104\*5\*6 : 単一指向性タイピン型マイクロホン  
HM-104A\*5\*6 : 無指向性タイピン型マイクロホン

- ★1 IPX7の防水性能があります。
- ★2 IPX4の防水性能があります。
- ★3 本製品に付属のものと同じです。
- ★4 OPC-2144(スリムL型プラグ変換ケーブル)が必要です。
- ★5 EH-14、EH-15、EH-15B、SP-28と組み合わせてご使用になれます。(※P20)
- ★6 OPC-2277LS(通話スイッチ内蔵型接続ケーブル)が必要です。

## 5 別売品とその使いかた

### ■ 別売品一覧 (つづき)

#### ヘッドセット関係

HS-85 <sup>*1</sup>	: VOX機能付きヘッドセット
HS-88 <sup>*2</sup>	: ヘッドセット ※生産終了品
HS-94 <sup>*3</sup>	: イヤーフック型ヘッドセット
HS-95 <sup>*3</sup>	: ネックアーム型ヘッドセット
HS-97 <sup>*3</sup>	: 咽喉マイクロホン
HS-99 <sup>*3</sup>	: 耳かけ式イヤホンマイクロホン
HS-102 <sup>*4</sup>	: イヤホン型ヘッドセット

#### イヤホン関係

SP-13 <sup>*1</sup>	: イヤホン (φ3.5mm)
SP-28	: 耳かけ型イヤホン (φ2.5mm)
SP-29 <sup>*5</sup>	: 耳かけ型イヤホン (φ3.5mm) ※ケーブル長: 約97cm
EH-14	: オープンエア型イヤホン (φ2.5mm)
EH-15	: イヤホン (φ2.5mm) ※EH-15B (黒色)
SP-16 <sup>*5</sup>	: 耳かけ型イヤホン (φ3.5mm) ※ケーブル長: 約50cm ※SP-16B (黒色/ケーブル長: 約50cm) ※SP-16BW (黒色/ロングケーブル: 約1m)

- ★1 OPC-2144(スリムL型プラグ変換ケーブル)が必要です。
- ★2 OPC-2277LS(通話スイッチ内蔵型接続ケーブル)が必要です。
- ★3 VOX機能を使用する場合はOPC-2006LS(VOX対応変換ケーブル)、通話スイッチを使用する場合はOPC-2328(通話スイッチ内蔵型接続ケーブル)が必要です。
- ★4 OPC-2359(通話スイッチ内蔵型接続ケーブル)が必要です。
- ★5 OPC-2375LS(イヤホン専用変換ケーブル)が必要です。

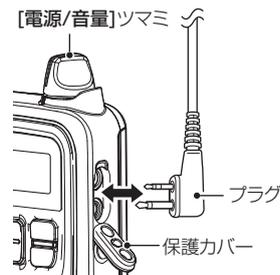
#### 【ご参考に】

本製品をパソコンから設定するためのクローニングソフトウェアとして、CS-IP100H(弊社ホームページからダウンロードできるフリーウェア)があります。

※弊社ホームページに掲載の「CS-IP100H取扱説明書」をよくお読みいただき、手順にしたがって別売品のクローニングケーブルを接続してください。

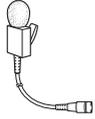
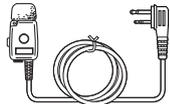
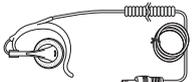
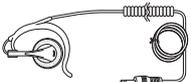
### ■ 別売品の接続について

- ◎接続ケーブルを抜き差しする前に、必ず本製品の電源を切ってください。
- ◎プラグを持ってまっすぐに抜き差ししてください。
- ◎防水対応により、差し込み部分がかたくなっていますので、接続するときは、プラグを奥まで確実に差し込んでください。
- ◎端子保護のため、別売品を接続しないときは、保護カバーを閉じた状態でご使用ください。



(2016年6月現在)

## ■ 別売品の接続について (つづき)

<b>HM-104/HM-104A</b> <sup>※1※5</sup> 単一指向性/無指向性タイプ 型マイクロホン 	<b>HM-153LS/HM-153</b> <sup>※2</sup> イヤホンマイクロホン  HM-153LS <b>復信通信対応</b>	<b>HM-166LS/HM-166</b> <sup>※2</sup> イヤホンマイクロホン  HM-166LS <b>復信通信対応</b>	<b>HM-183LS</b> 防水形スピーカーマイクロホン 	<b>HM-186LS/HM-186</b> <sup>※2</sup> 小型スピーカーマイクロホン  HM-186LS	<b>HS-85</b> <sup>※2</sup> (VOX機能 <sup>★1</sup> ) VOX機能付きヘッドセット  <b>復信通信対応</b>
<b>HS-88</b> <sup>※1</sup> ヘッドセット (生産終了品) 	<b>HS-94</b> <sup>※3※4</sup> (VOX機能 <sup>★2</sup> ) イヤホン型ヘッドセット 	<b>HS-95</b> <sup>※3※4</sup> (VOX機能 <sup>★2</sup> ) ネックアーム型ヘッドセット 	<b>HS-97</b> <sup>※3※4</sup> (VOX機能 <sup>★2</sup> ) 咽喉マイクロホン 	<b>HS-99</b> <sup>※3※4</sup> (VOX機能 <sup>★2</sup> ) 耳かけ式イヤホンマイクロホン 	<b>HS-102</b> <sup>※6</sup> イヤホン型ヘッドセット  <b>復信通信対応</b>
<b>SP-13</b> <sup>※2</sup> イヤホン 	<b>SP-28</b> 耳かけ型イヤホン 	<b>SP-29</b> <sup>※7</sup> 耳かけ型イヤホン 	<b>EH-14</b> オープンエア型イヤホン <b>EH-15</b> イヤホン <b>EH-15B</b> イヤホン(黒色) <b>SP-16</b> <sup>※7</sup> 耳かけ型イヤホン <b>SP-16B</b> <sup>※7</sup> 耳かけ型イヤホン(黒色) <b>SP-16BW</b> <sup>※7</sup> 耳かけ型イヤホン(黒色/ロングケーブル)		

※1 OPC-2277LS(通話スイッチ内蔵型接続ケーブル)が必要です。

※2 OPC-2144(スリムL型プラグ変換ケーブル)が必要です。

※3 VOX機能を使用する場合は、OPC-2006LS(VOX対応変換ケーブル)が必要です。

※4 通話スイッチを使用する場合は、OPC-2328(通話スイッチ内蔵型接続ケーブル)が必要です。

※5 EH-14、EH-15、EH-15B、SP-28と組み合わせてご使用になれます。

※6 OPC-2359(通話スイッチ内蔵型接続ケーブル)が必要です。

※7 OPC-2375LS(イヤホン専用変換ケーブル)が必要です。

★1 IP1000C側でVOX機能を「無効」にする必要があります。

★2 VOX機能を使用する場合は、IP1000C側でVOX機能を「有効」にする必要があります。

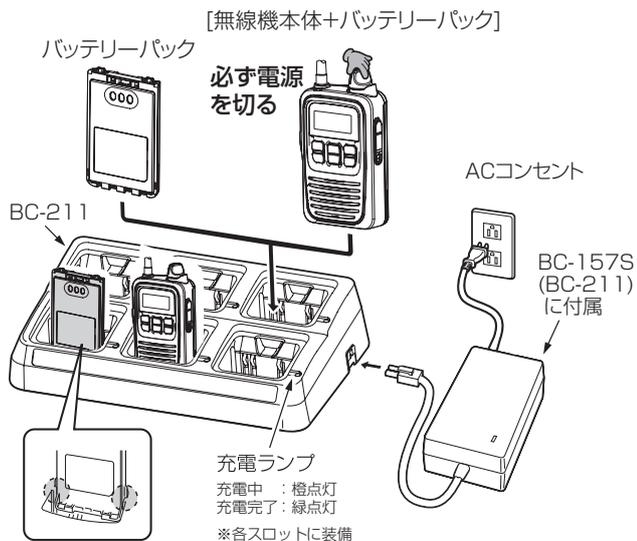
## 5 別売品とその使いかた

### ■ BC-211 (6連急速充電器) 充電のしかた

バッテリーパックを単体、または無線機本体に装着した状態で急速充電できます。

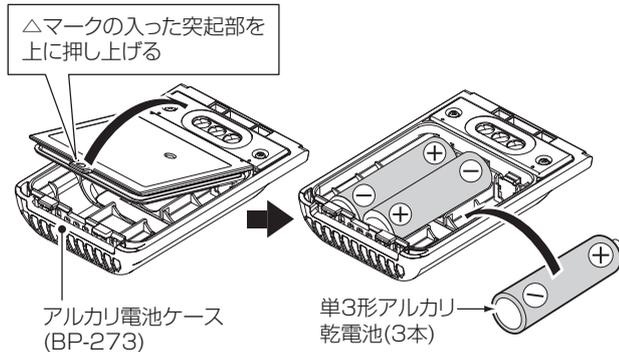
充電ランプは、充電中に橙色、充電完了で緑色に点灯します。

※橙色で点滅する場合は、25ページをご覧ください。



## ■ アルカリ電池ケースについて

アルカリ電池ケース(BP-273)のフタを開け、単3形アルカリ乾電池(3本)を入れます。



※本製品に装着するときの注意点などは、2ページの「**■**バッテリーパックの取り付けかた」をご覧ください。

### 【ご参考に】

アルカリ電池ケース(BP-273)は、本製品に装着すると、IPX4の防水性能があります。

アルカリ電池ケースを正しくご使用いただくために

### △危険

アルカリ電池ケース(BP-273)は、単3形アルカリ乾電池専用です。  
マンガン乾電池や単3形の充電式電池は使用しないでください。  
破裂、発火や火災、発熱、液もれ、感電、やけどの原因になります。

### △注意

アルカリ電池ケースを使用しないときは、アルカリ電池ケースからアルカリ乾電池を取りはずして保管してください。  
アルカリ電池ケースは昇圧回路を内蔵しています。  
そのため、アルカリ電池ケースを使用していないときも微少な電流が流れるため、アルカリ乾電池が消耗する原因になることがあります。

- ◎単3形アルカリ乾電池の極性(⊕(プラス側)と⊖(マイナス側))を間違えないように入れてください。
- ◎アルカリ電池ケースの電圧が本製品の動作範囲以下になると電源が切れます。
- ◎アルカリ電池ケースの電池端子部にゴミやホコリが付着すると正常に使用できないことがありますので、乾いたやわらかい布などで、電池端子部を定期的についでください。
- ◎アルカリ乾電池に記載されている注意事項も併せてお読みいただき、正しくご使用ください。

## ■ 故障かな?と思ったら

下記のような現象は故障ではありませんので、修理を依頼される前にもう一度お調べください。

それでも異常があるときは、弊社サポートセンター(☎P26)までお問い合わせください。

現象	原因	処置	参照
電源が入らない	端子の接触不良	バッテリーパック、またはアルカリ電池ケースの端子を清掃する なお、アルカリ電池ケースをご使用の場合は、電池の極性を間違えていないかを確認する	—
	バッテリーパック、または電池の消耗	バッテリーパックは充電し、電池は入れ替える	—
	バッテリーパックをご使用の場合、過放電保護回路が動作している	無線機からバッテリーパックを取りはずし、少し充電したあとにバッテリーパックをもう一度装着してから電源を入れる	—
音が聞こえない	音量が最小に調整されている	無線機本体の音量レベルを確認する	P6
	受信音声ミュート機能が設定されている	<b>【オプション】</b> キーを長く(約1秒)押し、受信音声ミュート機能を解除する	P10
通話できない	相手局番号、またはグループ番号を間違えている	相手局番号、またはグループ番号を確認する	P12、 P13
相手から応答がない	無線アクセスポイントとの距離がはなれすぎている	場所を移動してから通話してみる	—
	圏外(📶点滅)になっている		
	相手局が不在、または電源を切っている	相手局の状態を確認する	

■ 故障かな?と思ったら (つづき)

現象	原因	処置	参照
スイッチやキーを押すと、「キーロック」と表示される	ロック機能が動作している	ロック機能を解除する	P7
充電が完了しない	無線機の電源を入れた状態で充電している	無線機の電源を切った状態で充電する	P3、 P22
充電中に、充電器のランプが橙色で点滅、または橙色/緑色で交互に点滅する	バッテリーパックが正しく差し込まれていない	充電器に正しく差し込まれていることを確認する	P3、 P4、 P22
	0℃～40℃以外の環境で充電している (BC-202(付属品)の場合)	0℃～40℃の環境で充電する	
	10℃～40℃以外の環境で充電している (BC-211(別売品)の場合)	10℃～40℃の環境で充電する	
	各端子(充電端子や電源端子)の接触不良	ゴミやホコリが各端子に付着していないことを確認する	
	無線機の電源を入れた状態で充電している	無線機の電源を切った状態で充電する	P3、 P22
圏外(点滅)、または「接続試行中」と表示される	無線アクセスポイント側でANY拒否などSSIDステルス(隠蔽)機能を設定している(5GHz帯利用時)	無線アクセスポイント側の設定を変更する	—
	無線アクセスポイントとの距離がはなれすぎている	場所を移動してみる	
	無線アクセスポイントの電源が入っていない	無線アクセスポイントの電源を入れる	

※バッテリーパックを充電しなおしても電源が入らない場合や運用時間が短い場合は、バッテリーパックの故障、または寿命です。(※P4～5)  
お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

## 6 ご参考に

### ■ アフターサービスについて

「故障かな?と思ったら」(P24、P25)にしたがって、もう一度、本製品の設定などを調べていただき、それでも異常があるときは、次の処置をしてください。

#### 保証期間中は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

#### 保証期間後は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

#### ● 保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

#### ● 弊社製品のお問い合わせ先について

お買い上げいただきました弊社製品にご不明な点がございましたら、下記のサポートセンターにお問い合わせください。

#### お問い合わせ先

アイコム株式会社 サポートセンター

0120-156-313 (フリーダイヤル)

◆ 携帯電話・PHS・公衆電話からのご利用は、

06-6792-4949 (通話料がかかります)

受付(平日 9:00~17:00)

電子メール: support\_center@icom.co.jp

アイコムホームページ: <http://www.icom.co.jp/>

- 弊社製品の故障診断、持ち込み修理などの修理受付窓口は、別紙の「サービス受付窓口一覧」、または弊社ホームページ <http://www.icom.co.jp/> をご覧ください。

## ■ 一般仕様

**使用温度範囲**：-10~+60℃  
**湿度**：90%以下（結露状態を除く）  
**外形寸法**：58(W)×95(H)×26.4(D)mm  
 （突起物を除く、BP-271装着時）  
**重量**：約205g（アンテナとBP-271を含む）  
**電源電圧**：7.4V（BP-271）  
**消費電流**：平均150mA以下（送信時：100mA、  
 受信時：150mA、待機時：50mA）

## ■ 無線LAN部

**無線通信規格**：IEEE802.11n/a/b/g準拠  
**セキュリティ**：WEP（64/128bit）、  
 WPA-PSK（TKIP/AES）、  
 WPA2-PSK（TKIP/AES）  
**チャンネル数**：2.4GHz帯 13チャンネル  
 5GHz帯 19チャンネル  
**プロトコル**：TCP/IP  
**送信出力**：10mW/MHz以下

## ■ 音声部

**音声符号形式**：G711  $\mu$ -law（64kbps）  
**低周波出力**：400mW以上  
 （内部SP 16 $\Omega$  10%歪時）  
 200mW以上  
 （外部SP 8 $\Omega$  10%歪時）  
**低周波負荷インピーダンス**：内部SP 16 $\Omega$ /外部SP 8 $\Omega$

## ■ BC-202 急速充電器(付属品)

**入力電圧**：DC12~16V  
※BC-123S（BC-202付属ACアダプター）使用時  
**使用温度範囲**：0~40℃  
**重量**：約104g（ACアダプターを除く）  
**寸法**：88.00(W)×72.55(H)×46.50(D)mm

## ■ BC-211 6連急速充電器(別売品)

**入力電圧**：DC12~16V  
※BC-157S（BC-211付属ACアダプター）使用時  
**使用温度範囲**：10~40℃  
**重量**：約1200g（ACアダプターを除く）  
**寸法**：303.2(W)×78.2(H)×179.7(D)mm  
※突起物を除く

※定格・仕様・外觀等は、改良のため予告なく変更する場合があります。

# さくいん

	<b>C</b>	
[CLR/LOCK]キー	9	
	<b>F</b>	
[FUNC]キー	9, 14, 15, 16, 17	
	<b>I</b>	
IP表記	iv	
	<b>P</b>	
[PTT](送信)スイッチ	10	
Pベル機能	18	
	<b>V</b>	
VOX機能	18	
	<b>あ</b>	
アイコン	8	
[▲]/[▼]キー	9	
アドレス帳	12	
[アドレス帳]キー	9	
アルカリ電池ケース	5, 23	
アンテナ	1	
	<b>う</b>	
運用時間	5	
	<b>お</b>	
[オプション]キー	17	
音量調整のしかた	6	

	<b>き</b>	
キーロック	25, 7	
近隣呼出機能	16	
	<b>く</b>	
グループ呼び出し	8, 12	
	<b>こ</b>	
交信のしかた	10	
個別呼び出し	8, 13	
混信防止機能	11	
	<b>し</b>	
充電	3, 4, 22	
充電器	5, 22	
充電時間	5	
	<b>す</b>	
ステータス	15	
	<b>せ</b>	
接続ケーブル	20	
接続試行中	25	
全体呼び出し	8, 12	
	<b>そ</b>	
送信先	14	
[送信/受信]ランプ	10	

単信通信	た	10
電源	て	6, 24
電池の残量警告音		7
電池の残量表示		7
電波状態表示		8
電話		8
トークグループ呼び出し	と	17
バイブレーション機能	は	10
バッテリーパック		2, 5, 25
ハンドストラップ		2
複信通信	ふ	11
付属品		ii
プレゼンス		15
別売品	へ	19
ベルトクリップ		2
防水性能について	ほ	iii
ポケットビープ機能		18
保護カバー		20

待受画面	ま	8
無線アクセスポイント	む	vii, 25
メッセージ受信	め	8
メッセージを確認する		15
メッセージを送信する		14
呼び出しモード表示	よ	8
履歴	り	15
[履歴]キー		9
ロック機能	ろ	7

高品質がテーマです。

A-7105H-1J-③  
Printed in Japan  
© 2013–2016 Icom Inc.

**アイコム株式会社**

547-0003 大阪市平野区加美南1-1-32